

# 1 旅行業法及びこれに基づく命令

以下の各設問について、それぞれの選択肢の中から答を1つ選びなさい。

(1) 次のa～dの記述のうち、法第1条（目的）に定められているものをすべて選んでいるのはア～エのうちどれか。

- a. 旅行者の利便の増進
- b. 旅行を通じた国民生活の安定向上
- c. 旅行の安全の確保
- d. 旅行業務に関する取引の公正の維持

ア. a. b. c      イ. a. b. d      ウ. a. c. d      エ. b. c. d

(2) 次の行為のうち、報酬を得て事業として行う場合、旅行業に該当するものはどれか。

- ア. 旅館がゴルフ場と提携して、宿泊代金にゴルフ場利用代金を含んだ宿泊パックを企画して販売する行為
- イ. 宿泊事業者が自ら経営する旅館の宿泊プランをインターネットを利用して販売する行為
- ウ. プレイガイドが音楽コンサート等各種演劇催し物などの入場券を販売し、それらの主催者から手数料を収受する行為
- エ. コンビニエンスストアが旅行に関する相談に応ずる行為

(3) 次の記述は、法第2条（定義）の条文の一部である。空欄に該当するものはどれか。

旅行の目的地及び日程、旅行者が提供を受けることができる運送又は宿泊のサービス（以下「運送等サービス」という。）の内容並びに旅行者が支払うべき対価に関する事項を定めた旅行に関する計画を、旅行者の  のためにあらかじめ、又は旅行者からの依頼により作成するとともに、当該計画に定める運送等サービスを旅行者に確実に提供するために必要と見込まれる運送等サービスの提供に係る契約を、  において、運送等サービスを提供する者との間で締結する行為

〔語 群〕

- ① ア. 安全                      イ. 利便                      ウ. 募集                      エ. 要望
- ② ア. 自己の判断              イ. 自己の計算              ウ. 自己の計画              エ. 自己の責任

(4) 旅行業の登録に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 旅行業を営もうとする者にあつては、企画旅行に参加する旅行者の募集をすることにより実施するものであるかどうかその他の旅行業務に関する取引の実情を勘案して国土交通省令で定める業務の範囲の別を記載した申請書を国土交通大臣に提出しなければならない。
- イ. 第1種旅行業への変更登録の申請をしようとする第2種旅行者は、その主たる営業所の所在地を管轄する都道府県知事に変更登録の申請書を提出しなければならない。
- ウ. 旅行者代理業の新規登録の申請をしようとする者は、その代理する旅行者の主たる営業所の所在地を管轄する都道府県知事に新規登録の申請書を提出しなければならない。
- エ. 旅行業の登録の有効期間は、登録の日から起算して5年となる日の2箇月前までである。

(5) 次の記述のうち、登録の拒否事由に該当しないものはどれか。

- ア. 法人であつて、その役員のうち申請前5年以内に旅行業務に関し不正な行為をした者があるとき
- イ. 営業所ごとに旅程管理業務を行う主任者を確実に選任すると認められない者
- ウ. 第2種旅行業を営もうとする者であつて、その基準資産額が500万円であるもの
- エ. 成年被後見人若しくは被保佐人又は破産者で復権を得ないもの

(6) 登録業務範囲に関する次のa～dの記述のうち、正しい記述のみをすべて選んでいるのはア～エのうちどれか。

- a. 第1種旅行者で国内旅行業務取扱管理者を選任している営業所においては、本邦内及び本邦外の手配旅行契約の締結をすることができる。
- b. 第2種旅行者で総合旅行業務取扱管理者を選任している営業所においては、本邦内及び本邦外の受託契約を締結している他の旅行者が実施する企画旅行（参加する旅行者の募集をすることにより実施するものに限る。）契約を代理して締結することができる。
- c. 第2種旅行者で国内旅行業務取扱管理者を選任している営業所においては、本邦内の企画旅行（参加する旅行者の募集をすることにより実施するものに限る。）を当該営業所で実施することができる。
- d. 第3種旅行者で総合旅行業務取扱管理者を選任している営業所においては、本邦内及び本邦外の受託契約を締結している他の旅行者が実施する企画旅行（参加する旅行者の募集をすることにより実施するものに限る。）契約を代理して締結することができる。

- ア. a. c                      イ. a. b. d                      ウ. b. c. d                      エ. a. b. c. d

(7) 旅行業務取扱管理者の選任に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行者等は、営業所ごとに1人以上の旅行業務取扱管理者を選任しなければならない。
- イ. 旅行業務を取り扱う者が1人である営業所においても、旅行業務取扱管理者を選任しなければならない。
- ウ. 旅行業務取扱管理者は、他の営業所の旅行業務取扱管理者となることができない。
- エ. 旅行者等は、その営業所の旅行業務取扱管理者として選任した者のすべてが欠けた場合は、欠けるに至った日の翌日から起算して7日を限度として、その営業所において旅行業務に関する旅行者との契約を締結することができる。

(8) 旅行業務取扱管理者の職務に関する次のa～dの記述のうち、法令で定められている事項のみをすべて選んでいるのは、ア～エのうちどれか。

- a. 企画旅行の円滑な実施のための措置に関する事項
- b. 旅行業約款の掲示及び備置きに関する事項
- c. 登録事項の変更についての届け出に関する事項
- d. 旅行に関する計画の作成に関する事項

ア. a. c                      イ. b. d                      ウ. a. b. d                      エ. a. b. c. d

(9) 旅行業務の取扱料金（企画旅行に係るものを除く。）に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行者は、旅行業務の取扱いの料金の額を変更したときは、登録行政庁に対し14日以内にその旨を届け出なければならない。
- イ. 旅行者は、事業の開始前に、旅行者から收受する旅行業務の取扱いの料金を定め、これをその営業所において旅行者に見やすいように掲示しなければならない。
- ウ. 旅行業務の取扱いの料金は、契約の種類及び内容に応じて定率、定額その他の方法により定められ、旅行者にとって明確なものでなければならない。
- エ. 旅行者代理業者は、その営業所において、所属旅行者が定めた旅行業務の取扱いの料金を旅行者に見やすいように掲示しなければならない。

(10) 旅行業約款に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 第1種旅行者が第3種旅行業へ変更登録をする場合は、旅行業約款の企画旅行（参加する旅行者の募集をすることにより実施するものに限る。）の契約に係る事項を削除して、登録行政庁の認可を受けなければならない。
- イ. 旅行者が旅行業約款を定める場合、少なくとも旅行業務の取扱いの料金その他の旅行者との取引に係る金銭の收受及び払戻しに関する事項並びに旅行者の責任に関する事項が明確に定められているものでなければならない。
- ウ. 旅行者は、旅行業約款をその営業所において、旅行者に見やすいように掲示し、又は旅行者が閲覧することができるように備え置かなければならない。
- エ. 国土交通大臣が標準旅行業約款を定めて公示した場合において、旅行者が、標準旅行業約款と同一の旅行業約款を定めたときは、その旅行業約款については登録行政庁の認可を受けたものとみなす。

(11) 取引条件の説明に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業者等は、旅行者と企画旅行契約、手配旅行契約その他旅行業務に関し契約を締結しようとするときは、旅行者が依頼しようとする旅行業務の内容を確認した上、国土交通省令で定めるところにより、その取引の条件について旅行者に説明しなければならない。
- イ. 旅行業者等は、旅行者と企画旅行契約を締結しようとする場合にあっては、契約の申込み方法及び契約の成立に関する事項を説明しなければならない。
- ウ. 旅行業者等は、旅行者と企画旅行契約を締結しようとする場合にあっては、企画者以外の者が企画者を代理して契約を締結する場合は、その旨を説明しなければならない。
- エ. 旅行業者等は、書面の交付に代えて、電子情報処理組織を使用する方法その他の情報通信の技術を利用する方法であって国土交通省令で定めるものにより、当該書面に記載すべき事項を提供した場合は、書面の交付に代えることにつき旅行者の承諾を得たものとみなす。

(12) 法第12条の5（書面の交付）に関する次のa～dの記述のうち、企画旅行契約を締結した場合、法令で記載しなければならないと定められている事項のみをすべて選んでいるのは、ア～エのうちどれか。

- a. 旅行業務の取扱いの料金に関する事項
- b. 責任及び免責に関する事項
- c. 旅行に参加する資格を定める場合にあっては、その旨及び当該資格
- d. 旅行の目的地を勘案して、旅行者が取得することが望ましい安全及び衛生に関する情報がある場合にあっては、その旨及び当該情報

ア. a. d                      イ. b. c                      ウ. a. c. d                      エ. b. c. d

(13) 外務員に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業者等は、外務員に、国土交通省令で定める様式による証明書を携帯させなければ、その者を外務員としての業務に従事させてはならない。
- イ. 旅行業務取扱管理者は、旅行業務取扱管理者証をもって外務員証にかえることができる。
- ウ. 外務員は、その所属する旅行業者等に代わって、旅行者との旅行業務に関する取引について一切の裁判外の行為を行う権限を有するものとみなす。ただし、旅行者が悪意であったときは、この限りでない。
- エ. 旅行業における外務員とは、勧誘員、販売員、外交員、その他いかなる名称を有する者であるかを問わず、その役員又は使用人のうち、その営業所以外の場所でその旅行業者のために旅行業務について取引を行う者をいう。

(14) 企画旅行の募集広告に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 旅行者が旅行者等に支払うべき対価が当該企画旅行の出発日より異なる場合は、その最低額又は最高額のいずれかを表示しなければならない。
- イ. 企画旅行の募集広告の表示事項の一つに、企画者の営業所で選任されている旅行業務取扱管理者の氏名が定められている。
- ウ. 企画者以外の者の氏名又は名称を表示する場合にあっては、文字の大きさ等に留意して、企画者の氏名又は名称の明確性を確保しなければならない。
- エ. 参加者数にかかわらず実施する企画旅行の募集広告には、最少催行人員として「1名以上」と表示しなければならない。

(15) 次の a～d の記述のうち、広告するときに誇大表示をしてはならない事項として定められているもののみをすべて選んでいるのはア～エのうちどれか。

- a. 旅行者等の業務の範囲、資力又は信用に関する事項
- b. 旅行地における旅行者の安全の確保に関する事項
- c. 感染症の発生の状況その他の旅行地における衛生に関する事項
- d. 旅行地の景観、環境その他の状況に関する事項

ア. a. b                      イ. a. c. d                      ウ. b. c. d                      エ. a. b. c. d

(16) 標識に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行者等は、営業所において、国土交通省令で定める様式の標識を公衆に見やすいように掲示しなければならない。
- イ. 国内旅行業務取扱管理者試験に合格した者を旅行業務取扱管理者に選任する旅行者等の営業所においては、地の色が青色の旅行業登録票を掲示しなければならない。
- ウ. 旅行者等以外の者は、国土交通省令で定める様式の標識又はこれに類似する標識を掲示してはならない。
- エ. 旅行者代理業者は、旅行者代理業登録票の受託取扱企画旅行欄に、受託企画旅行を取り扱っている場合、企画旅行の企画者が明確となるよう記載しなければならない。

(17) 企画旅行の円滑な実施のための措置に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 企画旅行の円滑な実施のための措置は、旅行者を募集して企画旅行を実施する旅行者のみに課せられた法定の業務である。
- イ. 本邦外の旅行に関する計画に定めるサービスの内容の変更を必要とする事由が生じた場合における代替サービスの手配は、旅行者が行う旅程管理のための措置の一つである。
- ウ. 旅行者は、旅行に関する計画に定めるサービスの旅行者への確実な提供を確保するために旅行の開始前に必要な予約その他の措置を講じなければならない。
- エ. 旅行に関する計画における2人以上の旅行者が同一の日程により行動することを要する区間における円滑な旅行の実施を確保するために必要な集合時刻、集合場所その他の事項に関する指示は、旅行者が行う旅程管理のための措置の一つである。

(18) 旅程管理業務を行う者についての次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 旅程管理業務を行う者として、旅行業者によって選任される者のうち主任の者は、旅行業務に従事して3年以上の経験があれば実務の経験に替えることができる。
- イ. 旅程管理業務を行う者として旅行業者によって選任されるもののうち主任の者となるには、国土交通大臣の登録を受けた者が実施する旅程管理研修の課程を修了し、かつ、旅行の目的地を勘案して国土交通省令で定める旅程管理業務に関する実務の経験を有するものでなければならない。
- ウ. 企画旅行に旅程管理業務を行う者が複数同行する場合は、当該者はすべて旅程管理業務を行う主任の者の資格として定められている要件を満たす者でなければならない。
- エ. 旅程管理業務を行う主任の者の資格として定められている実務の経験には、登録研修機関の指導による旅程管理業務に相当する実務の研修を受けた経験は含まれていない。

(19) 次の a～d の記述のうち、旅行業者等の禁止行為として定められているもののみをすべて選んでいるのは、ア～エのうちどれか。

- a. 旅行者に対し、旅行地において特定のサービスの提供を受けること又は特定の物品を購入することを強要する行為
- b. 営業所に掲示した旅行業務の取扱いの料金を超えて料金を収受する行為
- c. 旅行業務に関し取引をした者に対し、その取引によって生じた債務の履行を不当に遅延する行為
- d. 旅行者に対し、旅行地において施行されている法令に違反するサービスの提供を受けることをあっせん又は便宜の供与を行う旨の広告をし、又はこれらに類する広告をすること

ア. b. d            イ. a. b. c            ウ. a. c. d            エ. a. b. c. d

(20) 旅行業者代理業者に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業者代理業者は、所属旅行業者の承諾がある場合に限り、所属旅行業者の行う旅行業を自己の行う旅行業であるとする広告をすることができる。
- イ. 登録行政庁は、旅行業者代理業者に対し、その行う営業が旅行業であると誤認させ、又は所属旅行業者を誤認させないようにするための措置をとるべきことを命ずることができる。
- ウ. 旅行業者代理業者は、旅行業務に関し取引をしようとするときは、所属旅行業者の氏名又は名称及び旅行業者代理業者である旨を取引の相手方に明示しなければならない。
- エ. 旅行業者代理業者が所属旅行業者のために旅行業務を取り扱うことを内容とする契約が効力を失ったときは、当該旅行業者代理業者の登録はその効力を失う。

(21) 営業保証金に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業者は、営業保証金の供託をしたときは、供託物受入れの記載のある供託書の写しを添付して、その旨を登録行政庁に届け出なければならない。
- イ. 旅行業者代理業者は、その代理する旅行業者が営業保証金の供託の届出をした後でなければ、その事業を開始してはならない。
- ウ. 旅行業者は、毎事業年度終了後において、その供託している営業保証金の額が規定の額に不足することとなるときは、その不足額を毎事業年度終了の日の翌日から100日以内に追加して供託しなければならない。
- エ. 旅行業者又は当該旅行業者を所属旅行業者とする旅行業者代理業者と旅行業務に関し取引をした運送機関又は宿泊施設は、その取引によって生じた債権に関し、当該旅行業者が供託している営業保証金について、その債権の弁済を受ける権利を有する。

(22) 営業保証金に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業者は、毎事業年度終了後において、その供託している営業保証金の額が規定の額に不足することとなる時のみ、その事業年度における旅行業務に関する旅行者との取引の額を登録行政庁に報告しなければならない。
- イ. 営業保証金は、国債証券、地方債証券その他の国土交通省令で定める有価証券をもって、これに充てることができる。
- ウ. 営業保証金の供託は、旅行業者の主たる営業所の最寄りの供託所にしなければならない。
- エ. 第3種旅行業の登録を受けた者の前事業年度における旅行業務に関する旅行者との取引の額が2億円未満の場合の営業保証金の額は300万円と定められている。

(23) 企画旅行（参加する旅行者の募集をすることにより実施するものに限る。）を実施する旅行業者の代理（受託契約）に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業者は、他の旅行業者が実施する企画旅行について、受託契約を締結したときは、旅行業者代理業の登録を受けなくても、委託旅行業者を代理して企画旅行契約を締結することができる。
- イ. 委託旅行業者及び受託旅行業者は、受託契約において、委託旅行業者を代理して企画旅行契約を締結することができる受託旅行業者又はその受託旅行業者代理業者の営業所を定めておかなければならない。
- ウ. 受託旅行業者が、受託契約において、当該受託旅行業者を所属旅行業者とする旅行業者代理業者のうち委託旅行業者を代理して企画旅行契約を締結することができるものを定めたときは、その受託旅行業者代理業者は、当該委託旅行業者を代理して企画旅行契約を締結することができる。
- エ. 受託旅行業者は、委託旅行業者の旅行業約款もしくは自社の旅行業約款のいずれかを旅行者の見やすいように掲示し、又は旅行者が閲覧することができるように備え置かなければならない。

(24) 登録行政庁が旅行者等に命ずることができる措置（業務改善命令）に具体的に明記されているものについて、次の a～d の記述のうち、正しい記述のみをすべて選んでいるのはア～エのうちどれか。

- a. 旅行業務取扱管理者を解任すること。
- b. 旅行業務の取扱いの料金又は企画旅行に関し旅行者から收受する対価を変更すること。
- c. 弁済業務保証金分担金を納付すること。
- d. 旅行者に生じた損害を賠償するために必要な金額を担保することができる保険契約を締結すること。

ア. a. c                      イ. a. b. d                      ウ. b. c. d                      エ. a. b. c. d

(25) 法に定められている旅行業協会の業務に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 旅行業協会が苦情の解決の対象としなければならないのは、旅行者から申し出のあった苦情のみであり、旅行者以外の者から申し出のあった苦情については受け付けることはできない。
- イ. 旅行者は、旅行業協会の保証社員になろうとするときは、すでに供託している営業保証金を弁済業務保証金分担金に充当し、その差額を取り戻すことができる。
- ウ. 旅行業協会が旅行者等の従業者に対する旅行業務の取扱いについての研修を実施するときは、社員以外の旅行者等の従業者も受けることができるようにしなければならない。
- エ. 旅行業協会は、旅行者から社員の旅行業務について苦情の解決の申し出があったときは、当該苦情に関する事情を調査した後、当該社員に対し苦情解決のために必要な業務の改善を命令することができる。



## 2 旅行業約款、運送約款及び宿泊約款

1. 以下の各設問について、それぞれの選択肢の中から答を1つ選びなさい。

(1) 標準旅行業約款（募集型企画旅行契約の部）に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 「募集型企画旅行」とは、旅行業者が、旅行者の募集のためにあらかじめ、旅行の目的地及び日程、旅行者が提供を受けることができる運送又は宿泊のサービスの内容並びに旅行者が旅行業者に支払うべき旅行代金の額を定めた旅行に関する計画を作成し、これにより実施する旅行をいう。
- イ. 旅行業者は、契約の履行に当たって、手配の全部を手配を業として行う者に代行させることができるが、他の旅行業者には手配の全部を代行させることはできない。
- ウ. 「国内旅行」とは、本邦内のみの旅行をいい、「海外旅行」とは、国内旅行以外の旅行をいう。
- エ. 旅行業者が法令に反せず、かつ、旅行者の不利にならない範囲で書面により特約を結んだときは、その特約は約款の規定に優先する。

(2) 標準旅行業約款（募集型企画旅行契約の部）「契約の申込み」、「電話等による予約」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 契約の申込みをしようとする旅行者は、所定の申込書に所定の事項を記入の上、旅行業者が別に定める金額の申込金とともに、旅行業者に提出しなければならない。
- イ. 通信契約の申込みをしようとする旅行者は、申込みをしようとする募集型企画旅行の名称、旅行開始日、会員番号等を旅行業者に通知しなければならない。
- ウ. 電話、郵便、ファクシミリその他の通信手段による予約を受け付けた場合で、旅行業者が定めた期間内に申込書と申込金の提出又は会員番号等の通知があったときの契約の締結順位は、当該予約の受付の順位による。
- エ. 特別な配慮を必要とする旅行者からの契約申込み時の申し出に基づき、旅行業者が旅行者のために講じた特別な措置に要する費用は、旅行業者の負担となる。

(3) 標準旅行業約款（募集型企画旅行契約の部）「契約の締結」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 通信契約によらない契約は、旅行業者が契約の締結を承諾し、申込金を受理した時に成立する。
- イ. 旅行業者は、契約の成立後速やかに、旅行者に、旅行日程、旅行サービスの内容、旅行代金その他の旅行条件及び旅行業者の責任に関する事項を記載した契約書面を交付しなければならない。
- ウ. 通信契約において電子承諾通知を発する場合は、旅行業者が当該通知を旅行者あてに発した時に契約は成立する。
- エ. 旅行業者が契約により手配し旅程を管理する義務を負う旅行サービスの範囲は、契約書面に記載するところによる。

(4) 標準旅行業約款(募集型企画旅行契約の部)「契約書面」、「確定書面」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業者は、手配状況の確認を希望する旅行者からの問い合わせがあったときは、確定書面の交付前であっても、迅速かつ適切にこれに回答しなければならない。
- イ. 旅行業者は、あらかじめ旅行者の承諾を得て、確定書面の交付に代えて、情報通信の技術を利用する方法により確定書面に記載すべき事項を提供したときは、旅行者の使用する通信機器に備えられたファイルに記載事項が記録されたことを確認しなければならない。
- ウ. 契約書面において、確定された旅行日程、運送若しくは宿泊機関の名称を記載できない場合には、当該契約書面において利用予定の宿泊機関及び表示上重要な運送機関の名称を限定して列挙した上で、当該契約書面交付後、旅行開始日の3日前までの当該契約書面に定める日までに、これらの確定状況を記載した書面を交付しなければならない。
- エ. 確定書面を交付した場合には、旅行業者が手配し旅程を管理する義務を負う旅行サービスの範囲は、当該確定書面に記載するところに特定される。

(5) 標準旅行業約款(募集型企画旅行契約の部)「契約の変更」に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 旅行業者は、運送・宿泊機関等の利用人員により旅行代金が異なる旨を契約書面に記載した場合において、旅行契約の成立後に旅行業者の責に帰すべき事由によらず当該利用人員が変更になったときは、契約書面に記載したところにより旅行代金の額を変更することができる。
- イ. 旅行業者は、旅行業者の関与し得ない事由が生じ、旅行の安全かつ円滑な実施を図るためやむを得ず旅行契約の内容を変更するときは、緊急やむを得ない場合であっても、必ず事前に旅行者の承諾を得なければならない。
- ウ. 利用する運送機関について適用を受ける運賃・料金が、著しい経済情勢の変化等により、旅行の募集の際に明示した時点において有効なものとして公示されている運賃・料金に比べて、通常想定される程度を大幅に超えて増額される場合であって、旅行業者が旅行代金を増額するときは、旅行開始日の前日から起算してさかのぼって10日目に当たる日より前に旅行者にその旨を通知しなければならない。
- エ. 旅行契約を締結した旅行者が、旅行業者の承諾を得ることなく、契約上の地位を第三者に譲り渡した場合であっても、旅行業者と当該旅行契約上の地位を譲り受けた第三者との間の効力が生ずる。

(6) 標準旅行業約款(募集型企画旅行契約の部)「旅行者の契約解除権」に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 旅行者が旅行開始後において、当該旅行者の責に帰すべき事由によらず契約書面に記載した旅行サービスを受領できなくなったことにより当該部分の契約を解除したときは、当該事由についての旅行業者の責任の有無にかかわらず、当該受領できなくなった旅行サービスに対して取消料、違約料、その他の既に支払い、又はこれから支払わなければならない費用は全て旅行者の負担となる。
- イ. 旅行者が通信契約を解除した場合に、旅行業者は、旅行者の署名なしに提携カード会社を通じて取消料の支払いを受けることはできない。
- ウ. 著しい経済情勢の変化等により運送機関の運賃・料金が増額されたことにより、旅行代金が増額された場合に、旅行者は契約を解除するには所定の取消料を支払わなければならない。
- エ. 確定書面に記載された「ツアー・タイトルのホテル名」が、旅行業者によって変更になった場合、旅行者は取消料を支払うことなく契約を解除することができる。

(7) 標準旅行業約款(募集型企画旅行契約の部)「旅行業者の解除権－旅行開始後の解除」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業者は、旅行者が旅行を安全かつ円滑に実施するための添乗員による当該旅行業者の指示への違背、添乗員に対する脅迫等により団体行動の規律を乱し、当該旅行の安全かつ円滑な実施を妨げるときは、契約の一部を解除することができる。
- イ. 旅行業者は、旅行者が病気により旅行の継続に耐えられないときは、当該旅行者に理由を説明することなく、旅程管理者の判断で直ちに、契約の一部を解除することができる。
- ウ. 旅行業者は、旅行地における天災によって、旅行の継続が不可能となったときは、契約の一部を解除できる。
- エ. 旅行業者が、旅行開始後に旅行契約を解除したときは、旅行業者と旅行者との間の契約関係は、将来に向かってのみ消滅し、旅行者が既に提供を受けた旅行サービスに関する旅行業者の債務については、有効な弁済がなされたものとする。

(8) 標準旅行業約款(募集型企画旅行契約の部)「契約の解除」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業者が、旅行開始後に約款の規定に基づき契約を解除した場合、旅行業者は、旅行代金のうち旅行者がいまだその提供を受けていない旅行サービスに係る部分に係る金額から、当該旅行サービスに対して取消料、違約料その他の既に支払い、又はこれから支払わなければならない費用に係る金額を差し引いたものを旅行者に払い戻さなければならない。
- イ. 旅行者が契約書面に記載する期日までに旅行代金を支払わないときは、当該期日の翌日において旅行者が契約を解除したこととなり、旅行者は、旅行業者に対して所定の取消料に相当する額の違約料を支払わなければならない。
- ウ. 旅行業者は、旅行者が病気、必要な介助者の不在その他の事由によって旅行開始後に契約を解除したときは、旅行者の求めに応じて、旅行者が当該旅行の出発地に戻るために必要な旅行サービスの手配を引き受ける。
- エ. 旅行業者の都合により旅行の出発日に変更されたため、旅行者が旅行開始前に契約を解除した場合に、旅行業者が旅行者に対し払い戻すべき金額が生じたときは、旅行業者は、旅行終了日の翌日から起算して7日以内に当該金額を払い戻さなければならない。

(9) 標準旅行業約款（募集型企画旅行契約の部）「旅程管理」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業者は、旅行中の旅行者が、疾病、傷害等により保護を要する状態にあると認め必要な措置を講じた場合において、これが当該旅行業者の責に帰すべき事由によるものでないときは、当該措置に要した費用を負担しなければならない。
- イ. 旅行業者は、旅行の内容により、当該旅行に添乗員その他の者を同行させて旅程管理業務その他当該旅行に付随して旅行業者が必要と認める業務の全部又は一部を行わせることがある。
- ウ. 添乗員が、旅程管理業務に従事する時間帯は、原則として8時から20時までとする。
- エ. 旅行者は、旅行開始後旅行終了までの間において、団体で行動をするときは、旅行を安全かつ円滑に実施するための旅行業者の指示に従わなければならない。

(10) 標準旅行業約款（募集型企画旅行契約の部）「責任」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行者が天災地変その他の旅行業者又は旅行業者の手配代行者の関与し得ない事由により損害を被ったときは、旅行業者は、いかなる場合においてもその損害を賠償する責任を負うものではない。
- イ. 旅行業者は旅行契約の履行に当たって、旅行業者の過失により旅行者の手荷物に損害を与えたときは、国内旅行にあつては損害の発生の翌日から起算して14日以内に旅行業者に通知があつたときに限り、旅行者1名につき15万円を限度（ただし、旅行業者に故意又は重大な過失がある場合を除く。）として賠償する。
- ウ. 旅行業者は、旅行契約の履行に当たって旅行業者が手配を代行させた者が過失により旅行者に損害を与えたときは、その損害を賠償する責任を負う。
- エ. 旅行業者は、旅行契約の履行に当たって旅行業者の過失により旅行者の身体に損害を与えたときは、旅行者が損害発生の翌日から起算して2年以内に当該旅行業者に通知があつたときに限り、その損害を賠償する。

(11) 標準旅行業約款（募集型企画旅行契約の部）「特別補償及び別紙特別補償規程」に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ア. 添乗員による解散の告知が行われない場合の旅行日程に定める最後の運送・宿泊機関等が宿泊機関である場合において、旅行者がフロントで精算の後に施設内の売店で転倒骨折して入院した場合は、規程に定める入院見舞金を支払わなくてよい。
- イ. 旅行業者は、旅行者が旅行参加中にその生命、身体又は手荷物の上に被った一定の損害について、当該旅行業者の故意又は過失があつた場合に限り、規程に定める額の補償金及び見舞金を支払う。
- ウ. 旅行日程に、旅行者が旅行業者の手配に係る運送・宿泊機関等のサービスの提供を一切受けない日（旅行地の標準時による。）が定められている場合において、その旨及び当該日に生じた事故によって旅行者が被った損害に対し規程による補償金及び見舞金の支払いが行われない旨を契約書面に明示したときは、当該日は企画旅行参加中としない。
- エ. 旅行業者の過失により、旅行参加中の旅行者が手荷物に損害を被った場合、当該旅行業者は、その過失責任に基づく損害賠償金を支払う場合は、当該賠償金に合わせて、規程で定める額の損害補償金を支払わなければならない。

(12) 標準旅行業約款（募集型企画旅行契約の部）「旅程保証」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行者1名に対して1旅行につき支払うべき変更補償金の額が1,000円未満であるときは、旅行業者は、これを支払う必要はない。
- イ. 旅行業者が支払うべき変更補償金の額は、旅行者1名に対して1旅行につき旅行代金に15%以上の旅行業者が定める率を乗じた額をもって限度とする。
- ウ. 契約書面に記載した本邦内の旅行開始地たる空港が官公署の命令により変更となった場合は、変更補償金の支払いは要しない。
- エ. 確定書面に利用する宿泊施設の名称をA旅館と記載したが、A旅館が自然災害にあい休業したため、B旅館に変更して利用した場合、旅行業者は定められた額の変更補償金を旅行終了日の翌日から起算して7日以内に支払わなければならない。

(13) 標準旅行業約款（募集型企画旅行契約の部）「団体・グループ手配」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 契約責任者は、旅行開始日の前日までに、構成者の人数を旅行業者に通知しなければならない。
- イ. 旅行業者は、契約責任者が構成者に対して現に負い、又は将来負うことが予測される債務又は義務については、何らの責任を負うものではない。
- ウ. 旅行業者は、契約責任者が団体・グループに同行しない場合、旅行開始後においては、あらかじめ契約責任者が選任した構成者を契約責任者とみなす。
- エ. 旅行業者は、特約を結んだ場合を除き、契約責任者はその団体・グループを構成する旅行者の契約の締結に関する一切の代理権を有しているものとみなし、当該団体・グループに係る旅行業務に関する取引は、当該契約責任者との間で行う。

(14) 標準旅行業約款（受注型企画旅行契約の部）に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 「受注型企画旅行」とは、旅行業者が、旅行者からの依頼により、旅行の目的地及び日程、旅行者が提供を受けることができる運送又は宿泊のサービスの内容並びに旅行者が旅行業者に支払うべき旅行代金の額を定めた旅行に関する計画を作成し、これにより実施する旅行をいう。
- イ. 旅行業者は、契約において、旅行者が旅行業者の定める旅行日程に従って、運送・宿泊機関等の提供する運送、宿泊その他の旅行に関するサービスの提供を受けることができるように、手配し、旅程を管理することを引き受ける。
- ウ. 「カード利用日」とは、旅行者又は旅行業者が契約に基づく旅行代金等の支払又は払戻債務を履行すべき日をいう。
- エ. 旅行業者は、契約の成立後速やかに、旅行者に対して依頼の内容に沿って作成した旅行日程、旅行サービスの内容、旅行代金その他の旅行条件に関する企画の内容を記載した企画書面を交付する。

(15) 標準旅行業約款（受注型企画旅行契約の部）「契約の申込み」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業者に契約の申込みをしようとする旅行者は、旅行業者所定の申込書に所定の事項を記入の上、旅行業者が別に定める金額の申込金とともに、旅行業者に提出しなければならない。
- イ. 旅行業者は、電話、郵便、ファクシミリその他の通信手段による受注型企画旅行契約の予約を受け付けるが、この場合、予約の時点では契約は成立しておらず、旅行者は、旅行業者が予約の承諾の旨を通知した後、旅行業者が定める期間内に、旅行業者に申込書とともに申込金を提出又は会員番号等を通知しなければならない。
- ウ. 特別な配慮を必要とする旅行者から契約の申込時にその旨の申し出があり、旅行業者がこれに応じたとき、旅行業者が旅行者のために講じた特別な措置に要する費用は、旅行者の負担とする。
- エ. 通信契約の申込みをしようとする旅行者は、会員番号その他の事項を旅行業者に通知しなければならない。

(16) 標準旅行業約款（募集型企画旅行契約の部・受注型企画旅行契約の部）「別紙特別補償規程」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 国内の募集型企画旅行に参加中の旅行者が事故にあい、その直接の結果、現地の病院に5日間入院後死亡した場合、旅行業者は、旅行者1名につき、入院見舞金2万円と死亡補償金1,500万円との合計額を支払わなければならない。
- イ. 国内の募集型企画旅行に参加中の旅行者が事故により身体に傷害を被り、その治療のため2日間通院した場合、旅行業者は、旅行者1名につき1万円の通院見舞金を支払わなければならない。
- ウ. 国内の募集型企画旅行に参加中の旅行者が事故にあい、骨折の傷害を被った部位を固定するため、医師の指示によりギプスを常時装着した結果、平常の生活に著しい支障があると旅行業者が認める場合は、その状態にある期間を通院日数とみなす。
- エ. 旅行業者は、いかなる場合においても、事故の日から180日を経過した後の通院に対しては、通院見舞金を支払わない。

(17) 標準旅行業約款（募集型企画旅行契約の部、受注型企画旅行契約の部）「別紙特別補償規程」に関する次の記述のうち、補償金等の支払いの対象となるものはどれか。

- ア. 国内旅行中の旅行者が、法令に違反するサービスの提供を受けている間に生じた事故による傷害
- イ. 旅行参加中の食事による細菌性食物中毒
- ウ. 国内旅行参加中の旅行者が脳疾患により倒れ、隣にいた当該旅行参加中の旅行者が巻き添えとなって被った傷害
- エ. 国内旅行中の旅行者が津波によって受けた傷害

(18) 標準旅行業約款（手配旅行契約の部）「用語の定義」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア。「手配旅行契約」とは、旅行業者が旅行者の委託により、旅行者のために代理、媒介又は取次をすること等により旅行者が運送・宿泊機関等の提供する運送、宿泊その他の旅行に関するサービスの提供を受けることができるように、手配することを引き受ける契約をいう。
- イ。「旅行代金」とは、旅行業者が旅行サービスを手配するために、運賃、宿泊料その他の運送・宿泊機関等に対して支払う費用及び変更手数料と取消手数料を含む旅行業者所定の旅行業務取扱料金をいう。
- ウ。「通信契約」とは、旅行業者が提携するクレジットカード会社のカード会員との間で電話、郵便、ファクシミリその他の通信手段による申込みを受けて締結する手配旅行契約であって、旅行業者が旅行者に対して有する手配旅行契約に基づく旅行代金等に係る債権又は債務を、当該債権又は債務が履行されるべき日以降に別に定めるクレジットカード会社のカード会員規約に従って決済することについて、旅行者があらかじめ承諾し、かつ旅行代金等を所定の方法により支払うことを内容とする手配旅行契約をいう。
- エ。「電子承諾通知」とは、契約の申込みに対する承諾の通知であって、情報通信の技術を利用する方法のうち旅行業者が使用する電子計算機、ファクシミリ装置、テレックス又は電話機と旅行者が使用する電子計算機等とを接続する電気通信回線を通じて送信する方法により行うものをいう。

(19) 標準旅行業約款（手配旅行契約の部）に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア。旅行業者が善良な管理者の注意をもって旅行サービスの手配をしたときは、旅行業者の債務履行は終了するため、満員、休業、条件不相当等の事由により、運送・宿泊機関等の間で旅行サービスの提供をする契約を締結できなくても、旅行業者がその義務を果たしたときは、旅行業者は旅行者から旅行業者所定の取扱料金を収受できる。
- イ。旅行業者は、旅行業者が手配するすべての旅行サービスについて乗車券類、宿泊券その他の旅行サービスの提供を受ける権利を表示した書面を旅行者に交付するときは、契約書面を交付しないことがある。
- ウ。旅行業者は、旅行サービスを手配するために、運送・宿泊機関等に対して支払った費用で旅行者の負担に帰すべきもの及び取扱料金の合計額が旅行代金として既に収受した金額に満たないときは、旅行終了後、速やかに旅行者にその差額を払い戻さなければならない。
- エ。旅行者が、旅行業者の責に帰すべき事由により旅行サービスの手配が不可能となり契約を解除した場合においては、旅行業者は、旅行者が既にその提供を受けた旅行サービスの対価として、運送・宿泊機関等に対して既に支払い、又はこれから支払わなければならない費用及びいまだその提供を受けていない旅行サービスに係る取消料、違約料、並びに旅行業者所定の取消手数料を除いて、既に収受した旅行代金を払い戻さなければならない。

(20) 標準旅行業約款（旅行相談契約の部）に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 旅行業者が契約に基づく業務を行うときは、旅行者は、旅行業者が定める期日までに、あらかじめ相談料金を支払わなければならない。
- イ. 旅行業者は、申込書の提出を受けることなく電話、郵便、ファクシミリその他の通信手段による契約の申込みを受け付けることができるが、この場合において、契約は、旅行業者が契約の締結を承諾した時に成立する。
- ウ. 旅行業者が相談料金を収受することを約して、旅行者の委託により、運送・宿泊機関等に関する情報提供をすることは、契約の業務の一つである。
- エ. 旅行業者が法令に反せず、かつ、旅行者に不利にならない範囲で書面により特約を結んだときは、その特約が優先する。

2. 次の記述はJR旅客営業規則について述べたものである。誤っているものを1つ選びなさい。

- ア. 「乗車券類」とは、乗車券、急行券、特別車両券、寝台券、コンパートメント券及び座席指定券をいう。
- イ. 旅客運賃の割引は、往復割引の普通旅客運賃に対する学生割引の適用以外、重複して行わない。
- ウ. 団体乗車券及び貸切乗車券は、運送引受け後であって、旅客の始発駅出発日の2箇月前から販売される。
- エ. 訪日観光団体が鉄道路線を利用するときの普通旅客運賃の団体割引率は、1割5分である。

3. 次の記述は、一般貸切旅客自動車運送事業標準運送約款について述べたものである。誤っているものを1つ選びなさい。

- ア. バス会社が収受する運賃及び料金は、運送契約の成立時において地方運輸局長に届け出て実施しているものによる。
- イ. 運送契約は、バス会社所定の乗車券を契約責任者に交付したときに成立する。
- ウ. バス会社は、車両の故障その他緊急やむを得ない事由により、契約された運送を行い得ない場合は、運送契約を解除し、又は契約責任者の承諾を得て、運送契約の内容を変更することができる。
- エ. バス会社は、旅客が法令を守らないことにより損害を受けたときは、その旅客に対し、その損害の賠償を求めることができる。



4. 次の記述は、フェリー標準運送約款について述べたものである。誤っているものを1つ選びなさい。

- ア. 旅客が指定便に係る乗船券について当該指定便の発航後に乗船船便の変更を申し出た場合には、フェリー会社は、当該乗船券の券面記載の乗船日に発航する他の船便の輸送力に余裕がある場合に限り、当該乗船券による2等船室への乗船変更の取扱いに応じる。
- イ. 3辺の長さの和が2メートル以下で、かつ、重量の和が30キログラム以下の手回り品の料金は、無料である。
- ウ. フェリー会社は、手回り品その他旅客の保管する物品の滅失、き損等により生じた損害については、当該フェリー会社又はその使用人に過失があったことが証明された場合に限り、これを賠償する責任を負う。
- エ. フェリー会社は、使用船舶の輸送力の範囲内において、運送の申込みの順序により、旅客及び手回り品の運送契約の申込みに応じる。

5. 次の記述は、国内航空2社（日本航空・全日空）の国内旅客運送約款について述べたものである。誤っているものを1つ選びなさい。

- ア. 航空券は、旅客が有効期限の満了する日までに搭乗しなければ、無効となる。
- イ. 旅客に同伴される飼い馴らされた小犬については、航空会社は持込手荷物として運送を引き受ける。
- ウ. 航空会社は、3歳未満の幼児を同伴した旅客の2階席への搭乗を拒絶し、1階席へ変更することができる。
- エ. 旅客の受託手荷物の損害に関する通知は、受取った手荷物については、その受取りの日から7日以内に、航空会社に対して文書により通知しなければならない。

6. 次の記述は、モデル宿泊約款について述べたものである。誤っているものを1つ選びなさい。

- ア. 宿泊客の手荷物が、宿泊に先立ってホテル（旅館）に到着した場合は、その到着前に当該ホテル（旅館）が了解したときに限って責任をもって保管し、宿泊客がフロントにおいてチェックインする際に当該手荷物を渡す。
- イ. 宿泊契約は、ホテル（旅館）が宿泊契約の申込みを承諾したときに成立する。
- ウ. 宿泊客がホテル（旅館）の駐車場を利用する場合、当該ホテル（旅館）が車両のキーを預かっているときに限り、ホテル（旅館）は車両の管理責任を負う。
- エ. ホテル（旅館）が宿泊客に客室を提供し、使用が可能になったのち、宿泊客が任意に宿泊しなかった場合においても、当該宿泊客は宿泊料金を支払わなければならない。

### 3 国内旅行実務

1. 大人35名で構成する普通団体が、JR及び貸切バスを利用して次の行程で旅行をした。

〔1日目〕 平成17年8月30日（火）

東京駅 22:00  $\xrightarrow{\text{サンライズ瀬戸（車中泊）}}$  7:26 高松駅（翌朝）  
在来線「寝台特急B寝台個室ソロ」

〔2日目〕 平成17年8月31日（水）

高松駅 8:20  $\xrightarrow{\text{うずしお3号}}$  9:31 徳島駅 {途中下車して観光}  
在来線特急普通車指定席

徳島駅 14:54  $\xrightarrow{\text{むろと1号}}$  16:19 海部駅（旅館宿泊）  
在来線特急普通車自由席  
（特急は牟岐駅までで牟岐駅 — 海部駅間は普通列車普通車自由席）

〔3日目〕 平成17年9月1日（木）

海部駅から貸切バス（大型、1台）に乗車、以降の行程4日目の高知駅まで貸切バスを利用。

海部  $\xrightarrow{\text{貸切バスにて観光}}$  高知市内（旅館宿泊）

〔4日目〕 平成17年9月2日（金）

高知市内  $\xrightarrow{\text{貸切バスにて観光}}$  高知駅 高知駅 12:00  $\xrightarrow{\text{南風14号}}$  14:27 岡山駅  
在来線特急普通車指定席

岡山駅 14:58  $\xrightarrow{\text{普通列車（赤穂線）}}$  16:07 播州赤穂駅（旅館宿泊）  
普通車自由席

〔5日目〕 平成17年9月3日（土）

播州赤穂駅 12:40 普通列車（赤穂線） 12:51 相生駅 13:08 こだま644号 14:04 新大阪駅  
 普通車自由席 山陽新幹線普通車指定席

新大阪駅 14:30 のぞみ56号 17:06 東京駅  
 東海道新幹線普通車指定席

※徳島駅 — 海部駅間、東岡山駅 — 相生駅間は地方交通線で、他の区間は全線幹線である。

## 〈資料：JR〉

### 〈運賃（距離）〉

東京駅	—	高松駅	営業キロ	804.7km
高松駅	—	徳島駅	営業キロ	74.5km
徳島駅	—	海部駅	営業キロ	79.3km
			（地方交通線）	擬制キロ
児島駅	—	海部駅	営業キロ	197.8km
			運賃計算キロ	205.7km
高知駅	—	東岡山駅	営業キロ	186.6km
高知駅	—	児島駅	営業キロ	151.5km
東岡山駅	—	相生駅	営業キロ	57.4km
			（地方交通線）	換算キロ
相生駅	—	東京駅	営業キロ	665.0km

### 運賃表

881～ 920km	11,340円
921～ 960km	11,660円
961～1,000km	11,970円

四国島内加算額（児島～宇多津間の加算運賃100円を含む。）

101km以上	240円
---------	------

### 〈料金〉

東京駅	—	高松駅	営業キロ	804.7km
高松駅	—	徳島駅	営業キロ	74.5km
徳島駅	—	牟岐駅	営業キロ	67.7km
高知駅	—	岡山駅	営業キロ	179.3km

### 在来線A特急料金表

（通常期指定席特急料金）

51～100km	1,660円
100～150km	2,290円
151～200km	2,610円
601km以上	3,660円

東京駅から高松駅までのB寝台料金 6,300円

相生駅から東京駅の「ひかり」、「こだま」特急料金（通常期指定席特急料金） 5,650円

新大阪駅から東京駅の「のぞみ」と「ひかり」、「こだま」を乗り継ぐ場合の特急料金 300円

〔設 問〕

行程及び資料に基づき、次の設問について該当する答を1つ選びなさい。

(1) J R区間で、35名分の団体旅客割引運賃の算出方法で正しいものはどれか。

ア.  $804.7+74.5+79.3=958.5$  → (運賃)  $11,660+240=11,900$  ----- ①  
 $186.6+57.4+665.0=909.0$  → (運賃)  $11,340+240=11,580$  ----- ②  
 $(①+②) \times (1-0.15)=19,958$  → は数整理 →  $19,950$  ----- ③  
③  $\times (35-1)$  合計 678,300円

イ.  $804.7+74.5+87.2=966.4$  → (運賃)  $11,970+240=12,210$  ----- ①  
 $186.6+63.1+665.0=914.7$  → (運賃)  $11,340+240=11,580$  ----- ②  
 $(①+②) \times (1-0.15)=20,221.5$  → は数整理 →  $20,220$  ----- ③  
③  $\times (35-1)$  合計 687,480円

ウ.  $804.7+74.5+79.3=958.5$  → (運賃)  $11,660$  ----- ①  
 $186.6+57.4+665.0=909.0$  → (運賃)  $11,340$  ----- ②  
 $(①+②) \times (1-0.1)=20,700$  ----- ③  
③  $\times (35-1)$  合計 703,800円

エ.  $804.7+74.5+87.2=966.4$  → (運賃)  $11,970+240=12,210$  ----- ①  
 $186.6+63.1+665.0=914.7$  → (運賃)  $11,340+240=11,580$  ----- ②  
 $(①+②) \times (1-0.1)=21,411$  → は数整理 →  $21,410$  ----- ③  
③  $\times (35-1)$  合計 727,940円

(2) JR区間で、35名分の料金の算出方法で正しいものはどれか。

- ア.  $3,660 - 510 = 3,150$  ----- ①  
 $6,300$  ----- ②  
 $1,660 \div 2 = 830$  ----- ③  
 $1,660 - 510 = 1,150$  ----- ④  
 $2,610 - 200 = 2,410$  ----- ⑤  
 $5,650 + 300 = 5,950$  ----- ⑥  
 (①+②+③+④+⑤+⑥) × (35-1) 合計 672,860円

- イ.  $3,660 - 510 = 3,150$  ----- ①  
 $6,300$  ----- ②  
 $(1,660 + 200) \div 2 = 930$  ----- ③  
 $1,660 - 510 = 1,150$  ----- ④  
 $2,610$  ----- ⑤  
 $5,650 + 300 = 5,950$  ----- ⑥  
 (①+②+③+④+⑤+⑥) × (35-1) 合計 683,060円

- ウ.  $3,660 + 200 = 3,860$  ----- ①  
 $6,300$  ----- ②  
 $(1,660 + 200) \div 2 = 930$  ----- ③  
 $(1,660 + 200) \div 2 = 930$  ----- ④  
 $2,610 - 200 = 2,410$  ----- ⑤  
 $(5,650 - 200) + 300 = 5,750$  ----- ⑥  
 (①+②+③+④+⑤+⑥) × (35-1) 合計 686,120円

- エ.  $3,660 + 200 = 3,860$  ----- ①  
 $6,300$  ----- ②  
 $(1,660 + 200) \div 2 = 930$  ----- ③  
 $1,660 + 200 = 1,860$  ----- ④  
 $2,610 \div 2 = 1,305 \rightarrow$  は数整理  $\rightarrow 1,300$  ----- ⑤  
 $5,650 + 300 = 5,950$  ----- ⑥  
 (①+②+③+④+⑤+⑥) × (35-1) 合計 686,800円

2. 温泉旅館に宿泊した1泊2日の大人30名の団体旅行に関する次の設問について、資料に基づき答えなさい。

(資料)

基本宿泊料(1泊2食付、1人当たり)	10,000円
追加料理飲物代(夕食時、1人当たり)	2,000円
入湯税(1人当たり)	150円

※上記には、サービス料(10%)は含まれていない。また、入湯税以外の諸税は含まれていない。

問. この団体が旅館に支払う総額はいくらか。次のア～エの中より選びなさい。

(注) モデル宿泊約款に基づく計算方法によるものとする。

ア.  $10,000 \times 30 = 300,000$  ----- ①  
 $2,000 \times 30 = 60,000$  ----- ②  
 $(①+②) \times 0.05 = 18,000$  ----- ③  
 $150 \times 30 = 4,500$  ----- ④  
 $(①+②+③+④)$  合計 382,500円

イ.  $\{10,000 + (10,000 \times 0.1)\} \times 30 = 330,000$  ----- ①  
 $2,000 \times 30 = 60,000$  ----- ②  
 $(①+②) \times 0.05 = 19,500$  ----- ③  
 $150 \times 30 = 4,500$  ----- ④  
 $(①+②+③+④)$  合計 414,000円

ウ.  $\{10,000 + (10,000 \times 0.1)\} \times 30 = 330,000$  ----- ①  
 $\{2,000 + (2,000 \times 0.1)\} \times 30 = 66,000$  ----- ②  
 $(①+②) \times 0.05 = 19,800$  ----- ③  
 $150 \times 30 = 4,500$  ----- ④  
 $(①+②+③+④)$  合計 420,300円

エ.  $\{10,000 + (10,000 \times 0.1)\} \times 30 = 330,000$  ----- ①  
 $\{2,000 + (2,000 \times 0.1)\} \times 30 = 66,000$  ----- ②  
 $150 \times 30 = 4,500$  ----- ③  
 $(①+②+③) \times 0.05 = 20,025$  ----- ④  
 $(①+②+③+④)$  合計 420,525円

3. 次の各設問について該当する答をア～エのうちから1つ選びなさい。

- (1) 4月28日に出発し、4月30日に帰着する「伊豆2泊3日の旅」の募集型企画旅行に夫婦2人で参加申込みしました。旅行出発日当日、東京駅で添乗員の受付時に、往きは鉄道会社によるオーバーブッキングのため新幹線ではなく在来線特急「踊り子」に変更の知らせを聞きました。旅行業者の説明では「旅行終了後に初日の行程が変更となったことに対する補償を行う」とのことなので参加することにしました。その他の変更はありませんでした。

この場合、旅行業者は、当該変更に対する変更補償金をいつまでに支払わなければならないか。

(注) 標準旅行業約款によるものとする。

ア. 5月14日      イ. 5月21日      ウ. 5月30日      エ. 6月2日

- (2) 「露天風呂付きの部屋に泊まる1泊2日の旅」というタイトルの募集型企画旅行に申込みをし、確定書面も受け取っていました。旅行代金は、70,000円でやや高価なのですが、評判の高いZ旅館の露天風呂付きの部屋に泊まれるということで楽しみにしていました。ところが、現地の旅館に到着してみると、旅館の営業はしているものの、給湯設備の故障で私たちの利用すべき露天風呂付きの部屋が使用不可能とのことで露天風呂付きでない部屋に案内され、やむを得ずその部屋に宿泊して昨日帰って来ました。このような場合、旅行者への補償はどうなっているのですか。

(注) 標準旅行業約款によるものとする。

- ア. どこからも補償はありません。  
イ. 旅行業者からの補償は特にありませんが、後日旅館から部屋の差額が支払われます。  
ウ. 旅行業者から変更補償金として、旅行代金70,000円の2%相当額が支払われます。  
エ. 旅行業者から変更補償金として、旅行代金70,000円の5%相当額が支払われます。

- (3) 貸切バスに関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 学校教育法による学校（大学及び高等専門学校を除く。）に通学又は通園する者の団体については、貸切バス運賃が2割引となる。  
イ. 回送料金は、旅客の乗車地の最寄りの営業所から当該乗車地まで及び旅客の降車地から当該営業所までの距離が20キロを超える場合に、その超えた距離について適用する。  
ウ. 宿泊待機料金は、2日以上にわたる運送で宿泊を伴う場合に適用する。ただし、標準宿泊待機時間（宿泊場所に到着してから出発するまでの間の時間が1泊につき15時間）を超えるときは、その超えた時間については時間待機料金を適用する。  
エ. 深夜早朝運行料金は、23時以降翌朝6時までの間に運行した場合に適用する。ただし、回送のための運行には適用しない。

(4) JRと国内航空2社(日本航空・全日空)に関する次の設問について、該当するものをそれぞれ選びなさい。

問. 大人2人、12歳の小学生1人、6歳の幼稚園児1人、2歳児1人の合計5人での旅行について、①・②の場合、大人運賃と小児運賃の組み合わせのうち、正しいものはどれか。  
(航空機については、座席を使用しないで搭乗できる者は座席を使用しないものとする。)

①JRで普通列車を利用した場合の運賃

- ア. 大人2人と小児3人の運賃が必要です。
- イ. 大人2人と小児2人の運賃が必要です。
- ウ. 大人2人と小児1人の運賃が必要です。
- エ. 大人3人分の運賃が必要です。

②航空機を利用した場合の運賃

- ア. 大人2人と小児3人の運賃が必要です。
- イ. 大人2人と小児2人の運賃が必要です。
- ウ. 大人3人と小児2人の運賃が必要です。
- エ. 大人3人と小児1人の運賃が必要です。

(5) 次の空港名と空港コードとの組み合わせのうち、誤っているものはどれか。

- ア. 福島空港 — FKS
- イ. 新潟空港 — NIG
- ウ. 岡山空港 — OKJ
- エ. 宮崎空港 — KMI

(6) 国内航空2社(日本航空、全日空)に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ア. 往復割引運賃は、満6歳以上の者に適用され、航空券発行日及び発行日翌日から起算して90日間の有効期間内に同一路線を往復する場合に適用される運賃である。
- イ. 当該予約便の航空券を出発時刻の20分前までに購入していることは、フレックストラベラー制度による協力金が支払われるための条件の1つである。
- ウ. スカイメイト割引運賃は、満12歳以上22歳未満のスカイメイト会員に適用され、搭乗日当日空席がある場合に利用できる。
- エ. 航空券の払戻しは、航空券の有効期間及び有効期間満了日(予約変更不可運賃の場合、搭乗予定便出発日)の翌日から起算して10日以内に限り行う。



(7) 次の記述はJRの乗車券について述べたものである。正しいものはどれか。

- ア. 乗車後、普通乗車券は有効期間内で未乗車区間の営業キロが1券片100kmを超える場合のみ払い戻す。その場合の手数料は乗車券1枚につき210円である。
- イ. 使用開始前で有効の普通乗車券は、2回に限って同じ種類の乗車券に手数料なしで変更できる。
- ウ. 普通乗車券を紛失した場合再度買い求め、係員に「紛失再」の表示を受け、下車駅で「再収受証明」を受けて、1年以内に紛失乗車券が発見された場合は、その乗車券と「再収受証明」のある乗車券を駅の精算所で無料で払い戻される。
- エ. 往復乗車券は片道営業キロが601km以上あれば「ゆき」「かえり」の運賃がそれぞれ2割引となる。

(8) JRを利用した下記の行程で、乗継割引の計算式の正しいものを1つ選びなさい。

(いずれも最初の列車の乗車日に乗り継ぐものとする)

[行程]

	在来線特急 ソニック	小倉	東海道・山陽新幹線 のぞみ	名古屋	在来線特急 (ワイドビュー)しなの	中津川
大分	(普通車指定席)		(普通車指定席)		(普通車指定席)	
特急料金	1,870円		6,670円		1,660円	

- ア.  $1,870 + (6,670 \div 2)$  は数整理  $+1,660$
- イ.  $1,870 + 6,670 + (1,660 \div 2)$
- ウ.  $(1,870 \div 2)$  は数整理  $+6,670 + (1,660 \div 2)$
- エ.  $(1,870 \div 2)$  は数整理  $+6,670 + 1,660$

(9) 次の記述は、JRの特急料金の乗継割引について述べたものである。正しいものはどれか。なお、それぞれの列車のうしろに記載の日付は乗車日である。

- ア. 苫小牧駅 — スーパー北斗2号(7月1日) — 函館駅 — 白鳥18号(7月1日) — 青森駅  
青森駅 — かもしか4号(7月1日) — 弘前駅  
◇スーパー北斗2号に割引が適用される。
- イ. 八戸駅 — はやて8号(7月1日) — 東京駅 — スーパービュー踊り子3号(7月1日) — 伊東駅  
◇スーパービュー踊り子3号に割引が適用される。
- ウ. 秋田駅 — こまち8号(7月1日) — 大宮駅 — 草津5号(7月1日) — 長野原草津口駅  
◇草津5号に割引が適用される。
- エ. 松山駅 — しおかぜ30号(7月1日) — 岡山駅(翌朝) — のぞみ70号(7月2日) — 東京駅  
◇しおかぜ30号に割引が適用される。

4. 次の  に該当する国立公園を下記の語群から1つ選びなさい。

- (1)  は、那須火山帯に属する山岳地でシラネアオイの群生地として知られる白根山、火山活動の活発な那須岳、高山植物の宝庫である至仏山等からなる日本の代表的な国立公園である。更にこれら山岳景観を中禅寺湖など火山活動に起因する湖沼や滝などが彩りを添える。
- (2)  は、北海道の道東中央部に位置し、千島火山帯の活動によってできた屈斜路・摩周のカルデラ地形を基盤とし、火山と森と湖が織りなす豊かな原始的景観を有する公園である。
- (3)  は、多様な自然環境と、そこに適応した動植物が生態系をつくりあげている島を中心とするわが国最西南端に位置する国立公園であり、その公園内の海域には、サンゴ礁の隆起によってできた竹富島がある。
- (4)  は、主峰の御前峰を中心に形成される山頂部とその付近にある千蛇ヶ池などの高山湖がいまって優美な火山風景を展開しており、この国立公園にちなんだ名前をもつ植物を含む高山植物の宝庫として有名である。

[語 群]

- |             |             |               |
|-------------|-------------|---------------|
| ア. 西海国立公園   | イ. 西表国立公園   | ウ. 白山国立公園     |
| エ. 支笏洞爺国立公園 | オ. 中部山岳国立公園 | カ. 阿寒国立公園     |
| キ. 霧島屋久国立公園 | ク. 大雪山国立公園  | ケ. 日光国立公園     |
| コ. 磐梯朝日国立公園 | サ. 知床国立公園   | シ. 富士箱根伊豆国立公園 |

5. 次の(1)～(5)の記述は、各観光地とJRの最寄り駅の組み合わせであるが、それぞれの最寄り駅が所在する路線名を下記の語群から選びなさい。

- (1) 都井岬 — 串間駅
- (2) 中尊寺 — 平泉駅
- (3) 三徳山三佛寺 — 倉吉駅
- (4) 襟裳岬 — 様似駅
- (5) 三保の松原 — 清水駅

[語 群]

- |         |         |         |         |          |
|---------|---------|---------|---------|----------|
| ア. 日高本線 | イ. 函館本線 | ウ. 東北本線 | エ. 奥羽本線 | オ. 東海道本線 |
| カ. 中央本線 | キ. 山陰本線 | ク. 山陽本線 | ケ. 日豊本線 | コ. 日南線   |

6. 次の各設問について該当する答をそれぞれ1つ選びなさい。

(1) 次の温泉地と名産品の組み合わせのうち、同じ都道府県にないものはどれか。

- | (温泉地)   | (名産品)      |
|---------|------------|
| ア. 白骨温泉 | —— 鳩車      |
| イ. 花巻温泉 | —— 大館曲げわっぱ |
| ウ. 道後温泉 | —— 伊予絨     |
| エ. 杖立温泉 | —— 山鹿灯籠    |

(2) 次の温泉地と建造物の組み合わせのうち、同じ都道府県にないものはどれか。

- | (温泉地)    | (建造物)      |
|----------|------------|
| ア. 瀬波温泉  | —— 北方文化博物館 |
| イ. 宇奈月温泉 | —— 五箇山合掌造  |
| ウ. 银山温泉  | —— 本間美術館   |
| エ. 川治温泉  | —— 旧閑谷学校   |

7. 次の各設問について該当する答をそれぞれ1つ選びなさい。

(1) 次の高原と山と湖の組み合わせのうち、すべてが同じ都道府県にあるものはどれか。

- |         |        |        |
|---------|--------|--------|
| ア. 那須高原 | —— 筑波山 | —— 榛名湖 |
| イ. 美女平  | —— 立山  | —— 黒部湖 |
| ウ. 蒜山高原 | —— 三瓶山 | —— 宍道湖 |
| エ. 城島高原 | —— 九重山 | —— 池田湖 |

(2) 次の古代遺跡と城と陶磁器の組み合わせのうち、すべてが同じ都道府県にあるものはどれか。

- |           |        |         |
|-----------|--------|---------|
| ア. 吉野ヶ里遺跡 | —— 唐津城 | —— 伊万里焼 |
| イ. 高松塚古墳  | —— 二条城 | —— 清水焼  |
| ウ. 三内丸山遺跡 | —— 弘前城 | —— 笠間焼  |
| エ. 登呂遺跡   | —— 浜松城 | —— 常滑焼  |

8. 次の記述に該当するものを語群から、それぞれ1つ選びなさい。

- (1) 後醍醐天皇の冥福祈願のため、足利尊氏が高僧、夢窓国師を開山とした京都五山の第一位の寺はどれか。

〔語 群〕 ア. 鹿苑寺      イ. 仁和寺      ウ. 天龍寺      エ. 醍醐寺

- (2) 県境にある甲武信ヶ岳に源を発し、豊かに広がる自然に恵まれたリンゴ、ももなどの産地を流れる雄大な川で、島崎藤村の「小諸なる古城のほとり雲白く遊子悲しむ……」で始まる詩に詠われている川はどれか。

〔語 群〕 ア. 最上川      イ. 広瀬川      ウ. 千曲川      エ. 天竜川

- (3) 源義経は兄の頼朝に謀反を疑われて追われ、奥州平泉に向かう途中、関を通過しようとするが関守富樫泰家に見咎められ、詮議の問答が始まる。歌舞伎「勧進帳」でも有名である。この関はどれか。

〔語 群〕 ア. 白河の関      イ. 安宅の関      ウ. 碓氷の関      エ. 箱根の関

- (4) 山々の描く稜線から平野にたどる途中に細長く広がる坂の町で、毎年9月のはじめに二百十日の大風をおさめ五穀豊穰と永世の繁栄を祈るため叙情豊かに気品高く歌い踊り継がれる行事が行われる。この行事はどれか。

〔語 群〕  
ア. 越中おわら風の盆  
イ. 津和野の鷺舞  
ウ. 花笠まつり  
エ. 竿灯まつり

9. 次に掲げる庭園の所在する都道府県と関連する民謡を語群から選びなさい。

- (1) 仙巖園      (2) 偕楽園      (3) 兼六園

〔語 群〕  
ア. 磯節      イ. おはら節      ウ. 下津井節  
エ. 南部牛追唄      オ. ひえつき節      カ. 山中節

10. 次の祭・行事の開催月について、それぞれの空欄に該当するものを下記の語群から1つ選びなさい。

- | (祭り・行事)    | (開催月)                    | (都道府県) |
|------------|--------------------------|--------|
| (1) 博多どんたく | — <input type="text"/> — | 福岡県    |
| (2) 秩父夜祭   | — <input type="text"/> — | 埼玉県    |
| (3) 阿波踊り   | — <input type="text"/> — | 徳島県    |
| (4) 京都祇園祭  | — <input type="text"/> — | 京都府    |

[語 群]

- ア. 1月    イ. 2月    ウ. 3月    エ. 4月    オ. 5月    カ. 6月  
キ. 7月    ク. 8月    ケ. 9月    コ. 10月    サ. 11月    シ. 12月

11. 「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」に登録された世界遺産のうち、わが国が「世界自然遺産」として登録されたところは3箇所である。次のa～dのうち、わが国の「世界自然遺産」に登録されている3箇所すべてを選んでいるのは、次のア～エのうちどれか。

- a. 屋久島    b. 紀伊山地    c. 知床    d. 白神山地
- ア. a. b. c    イ. a. b. d    ウ. a. c. d    エ. b. c. d